

水銀ゼロ標準温度計



- 高精度水銀フリー製品。
- 標準温度計（水銀使用製品）の代替品。
- 毛細管の内側に特殊コーティングをし、専用青液を封入しているため毛細管内部を濡らしません。（精密測定が可能）
- JCSS 校正証明書、一般トレーサビリティ校正証明書対応。
- 再校正対応。
- ISO 等の取得、品質管理、現場計測に最適。
- JIS 規格用、ASTM 規格用もあります。（棒状）

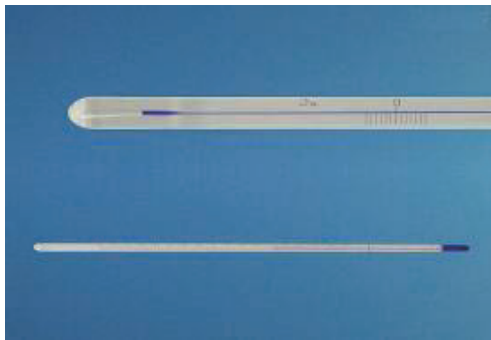
製品 No.	温度範囲	目量	全長	浸没
1-NM-21	-10～ 50℃	0.1℃	340×5.5～6mm	全没
1-NM-510	-10～ 50℃	0.1℃	420×8～9mm	全没
1-NM-10	-50～ 0℃	0.1℃	400×8～9mm	全没
1-NM-11	0～ 50℃	0.1℃	400×8～9mm	全没
1-NM-12	+50～100℃	0.1℃	400×8～9mm	全没
1-NM-13	+100～150℃	0.1℃	400×8～9mm	全没
1-NM-6	0～100℃	0.1℃	550×9～9.5mm	全没
1-NM-1	0～ 50℃	0.2℃	350×8～9mm	全没
1-NM-2	0～100℃	0.2℃	420×8～9mm	全没

ANDO 株式会社 **安藤計器製工所**

☎ 〒173-0022 東京都板橋区仲町 31-1 ☎ 03-3973-2330 ☎ 03-3972-3437

🌐 <https://www.andokeiki.co.jp> 📧 andnet@andokeiki.co.jp

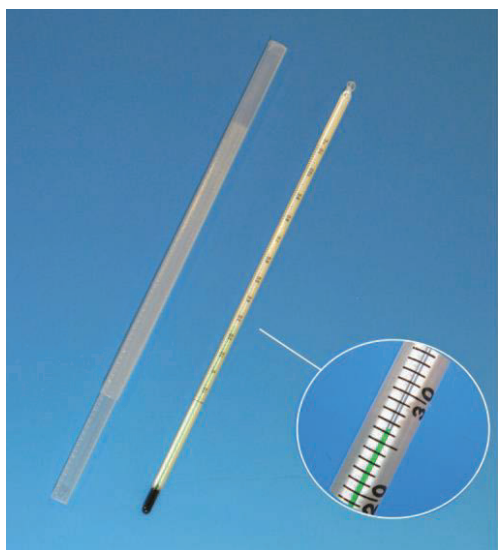
水銀ゼロ浸没線付き棒状標準温度計



- 水銀フリー製品。水銀不使用。
- 水銀の JIS B 7410 石油類試験用ガラス製温度計代替用。
- 毛細管の内側に特殊コーティングをし、専用青液を封入しているため毛細管内部を濡らさず精密測定が可能。
- 校正証明書（JCSS または一般）自社対応可能。

製品 No.	温度範囲	目盛	全長×直径	浸没
ASTM 37C	-2~ +52°C	0.2°C	400×6~8mm	100mm
ASTM 39C	+48~+102°C	0.2°C	400×6~8mm	100mm
ASTM 41C	+98~+152°C	0.2°C	400×6~8mm	100mm
ASTM 103C	+148~+202°C	0.2°C	395×6~8mm	100mm

Eco Friendly 棒状温度計



- 無害対策品。人体に無害液使用。
- 封入液は Biodegradable(生物分解性のある)緑液。
- 75mm 浸没させて使用。
- -10~360°Cまで対応。
- 校正証明書（JCSS または一般）自社対応可能。
- 食品・医療などの現場で安心して使える温度計。

製品 No.	温度範囲	目盛	全長×直径	浸没	封入液
1-EC-1	-10~110°C	1°C	300×6~7 mm	75 mm	無害緑液
1-EC-2	-10~110°C	0.5°C	300×6~7 mm	75 mm	
1-EC-3	-10~150°C	1°C	300×6~7 mm	75 mm	
1-EC-4	-10~250°C	2°C	300×6~7 mm	75 mm	
1-EC-5	-10~360°C	2°C	300×6~7 mm	75 mm	

校正について

正しい計量トレーサビリティの確保

平成 20 年 3 月 27 日、産業技術総合研究所は「計量標準総合センターが発行する基準器検査成績書をもって計量トレーサビリティの根拠とすることはできません」と「お知らせ」で発表しています。トレーサビリティ確保には「不確かさ」のついている当社の「JCSS 校正」または「一般校正」をご利用ください。

基準器成績書

JCSS校正証明書

JCSS 校正証明書の発行（国際 MRA 対応）

JCSS
JCSS 0309
当社 計量校正研究所は、国際MRA対応 JCSS認定事業者です。JCSS0309は 当社 計量校正研究所の認定番号です。

ガラス製温度計

校正範囲
-70~+350°C

指示計器付温度計
(デジタル温度計)

校正範囲
-70~+500°C

密度浮ひょう等：衡量法
(比重・酒精度・重パーメ度等)

校正範囲
0.600~2.000 g/cm³

JCSS（計量法トレーサビリティ制度）は国家標準にトレーサブルな計量標準の供給を目的とした制度です。以前は温度基準器として産業技術総合研究所が直接ユーザ様向けに校正を行っていました。平成 5 年 11 月に施行された改正計量法により、産業技術総合研究所がユーザ様向けに直接行う基準器校正は今日、ほぼなくなりました。それに代わり登録/認定事業者による JCSS 標準器校正がはじまりました。（トレーサビリティ制度のはじまりです。）登録/認定事業者である安藤計器製工所で行う JCSS 校正は今までユーザ様に対して国家（産総研）で行っていた基準器検査の代わりに行う内容になります。

他社製品も校正可能です。（JCSS 校正・一般校正）

